

石川功一 没後15周年

軽井沢の草花スケッチと油彩展



石川功一《アサマキスゲ(ゆうすげ)》1997年 カンバス油彩 15号 Koichi Ishikawa《Asamakisuge (Yūsuge)》1997 Oil on canvas 15F

小さな美術館 軽井沢草花館

2022 4/23 (土) - 11/20 (日)

開館時間 10:00 ~ 17:00 入館料 500 円 (中学生以上)、小学生以下無料

休館日 火曜日

但し、5/3は祝日につき開館、また11/21以降冬期休館

<https://kusabana.net> Tel.0267-42-0716



軽井沢駅北口から約500m

地図QRコード

場所は右のQRコードをスマホで読み取るか、裏面の地図でご確認下さい



石川功一 没後15周年

軽井沢の草花スケッチと油彩展

The 15th anniversary of the death of Kōichi Ishikawa,
Karuzawa wild flowers water & oil painting exhibition.

軽井沢に自生するの草花を愛し、描き続けた画家・石川功一(1937-2007)が亡くなってから今年で15年。本展では、石川功一が描いた水彩スケッチと油彩画の中から、軽井沢でよく見られる花、代表的な花、貴重な花等、約40点を厳選。エッセーや散策メモ等の資料と共に、期間中少しずつ展示替えしながら公開していく。

小さな美術館 軽井沢草花館(かるいざわ くさばなかん)

画家・石川功一が描き続けた軽井沢に自生する草花図を展示する小さな個人美術館(1997年開館〜)。石川功一の草花水彩スケッチ(約950種、3,000余枚)と油彩画百数十点ををはじめ、人物デッサン、人物、風景画を所蔵し、草花図を中心とした様々な企画展を開催している。

軽井沢に自生する草花を愛した石川功一の経歴と活動

1937年(昭和12年)三重県伊賀市阿保(旧・名賀郡青山町)で開業医の二男として出生。

20才の時に大志をいだき東京に出奔、マンガ家となる。

その後、画家への道をめざしデッサンに明け暮れる。

30才の頃より描きはじめたドローイング「人間戯画」が銀座の画廊に認められ、援助を受けることになる。

以降、人物画を中心に画家としての活動を続ける。

1981年(44才)、個展で軽井沢を訪れたことがきっかけで草花と出会い、草花画が本来目指すべき道だと悟り、

草花のスケッチと油彩画制作に新しい境地を開いた。草花本来の姿を描き取るため、スケッチは自ら軽井沢の

野山を駆け巡り、自生している状態を描き続けた。油彩画は背景の色を何層にも重ねる独自の画法で、日本画のような繊細な画風を生み出した。

開発の中で自生地が狭められ、消えゆく草花が増える中、「軽井沢の自然に息づく草花の永遠の命を残す」を

テーマに制作を続けた。2007年7月永眠(満70才)。



《レンゲシオウマ》油彩 30号



《ルリソウ》水彩スケッチ



《チョウセンゴミシの実》水彩スケッチ

